

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 12 No 01

126号

平成16年 1月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>



新しい年に向けて-2004- 院長

毎年恒例ですが、新しい年に向けてと題して昨年を振り返ってみます。昨年は怪我や病気もなく、スタッフの移動もなく安定した一年を過ごすことが出来ました。

昨年の話題の第一は、8月30～31日に開催された日本外来小児科学会の成功でした。準備から開催まで2年でしたが、とても短く感じられました。参加者が1600人を越えるほどの盛会のうちに、終了することができました。学会の総務で忙しさもひとしおでなかったのですが、その分だけ大きな達成感が得られました。新聞でも紹介しましたが、解散のときには涙が止らなくなりました。このような大きな感動、本当に久しぶりでした。当院のスタッフの協力も大きな力となったことは言うまでもありません。

次は、東北放送ラジオのレギュラー出演です。毎月第1木曜日に、スタジオに出向いての生放送です。藤澤智子さんがパーソナリティをつとめる番組のコーナー「くらしのめあて」を担当しています。この番組は10～15分の時間で、こどもの病気の話について取り上げています。普通の医療の番組とは違い、病気や対処法の話だけでなく、自分の考えを伝えることができるのがとても魅力的です。司会の藤澤さんは本当に明るい人で、こちらで自由に話をさせてもらっています。今まで、予防接種の話、麻疹、インフルエンザなどの話をさせてもらいました。もうしばらく続く予定です。毎月第一木曜日13：20頃（多少時間が変更になることもあります）からです。どうぞ、お聞きになってみてください。何か取り上げてもらいたい話題等がありましたら、受付までお願いします。待合室で放送内容を紹介したいと思います。乞う御期待。

ラジオ放送を、もう一つ。4月7日～11日まで、「健康ワ

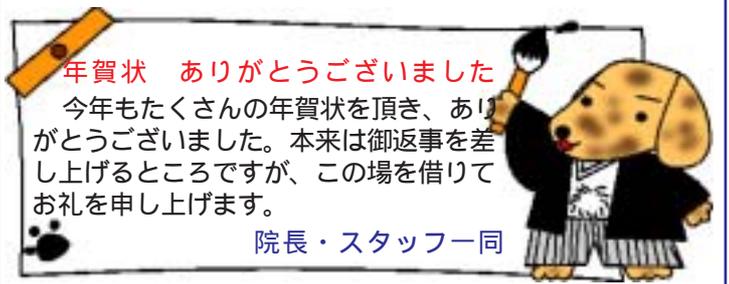
ンポイント」が共同通信社の企画でニッポン放送で放送されました。東北放送始め、各地でも放送されました。小児科にかかるときの注意、風邪、上手な薬の飲ませかたなどについての話です。この放送の内容をまとめた新聞記事（待合室に掲示）が共同通信社から配信され、河北新報にも載ったのでご覧になられた方もいるかと思えます。こちらでも、放送内容を紹介したいと思っています。

仙台リビングでも毎月第1週の「リビングウエルネス通信～子どもの健康～」を担当しています。このコーナーは読者から寄せられた質問に答えるカタチで、回答と解説を行っています。

次は、豊橋市の育児支援情報誌「ママゴン」です。どうして豊橋市なのと、思うかもしれません。これはホームページの効果です。当院のHP見たことが、依頼のきっかけとなったようです。このような遠くへの情報発信ができるなんて、ほんと不思議な気持ちです。- 名医が語る - お母さんへの手紙のコーナーです。フルカラーのページで毎回顔写真と「小児科医がやさしく教える 赤ちゃんこどもの病気」が載っています。待合室に見本誌を置きますので、ご覧になってみてください。

そして、「かわむらこどもクリニックHOMEPAGE」のアクセス数が昨年12月に、ついに50万件を突破しました。1996年1月15日にHPを開設して、もうすぐ8年になります。当初は海のものとも山のものともわからない状況でした。多くの人たちに支えられて続けています。

いつの間にか、当院も2月20日で11年になり、再び新しい10年を踏み出し始めます。毎年「漫然と同じことの繰り返しでは、進歩がありません。」と書いています。これから、また何か新しいことが出来るか、性懲りもなく考えているところです。お母さんたちも子どもたちのため、何か一つ新しいことに挑戦してみましょ。新しいことが出来なくても、一つ一つの小さな積み重ねの大切さも大事にしたいことです。子どもたちを取り巻く環境は必ずしも良好ではありません。今年は皆さんにとっても自分にとっても、ますますよい年になることを願っています。



麻疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻疹のワクチンを』

スタッフから一言 あけまして おめでとう ございます

今年新しいことへの挑戦がいい方へと向かうよう、頑張りたいと思います。皆様にとってよい年になりますように！三浦江理子

昨年はカゼをひいていた時に、お母さん方に「大丈夫ですか？」などと逆に心配されてしまったので、今年は体調管理に気をつけたいなと思います。 福地あさか

今年は何女！！（年がばれるかしら）。そして今年はお母さんともどもクリニックに勤めて10年目！！心機一転気を引き締め、ひとつひとつ丁寧にやり遂げたいと思います。 婦長 中米由美子

今年すべきこと。規則正しい生活。貯金。食べ過ぎ注意。お酒はひかえめに。以上の事に心がけ、努力する事を誓います。今年もいい事がありますように。 茂木玲子

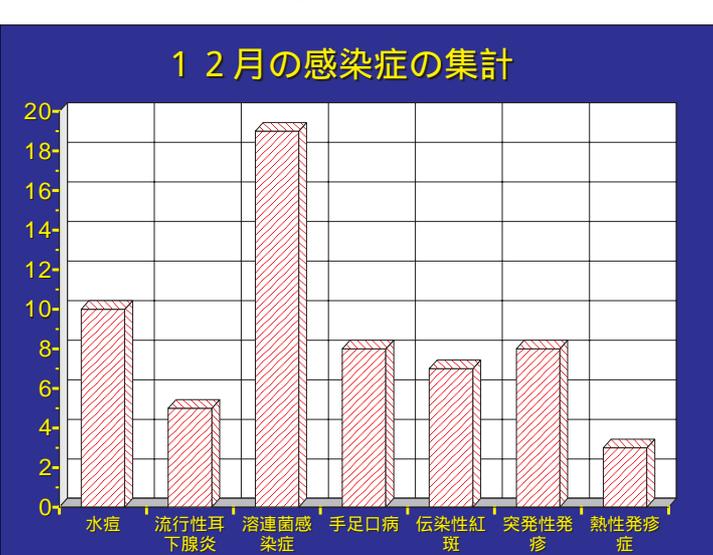
今年、仕事でも私生活でも、足踏みせずに前進していきたいです。もうひとつは昨年実行できなかったケーキを焼くこと。息子の1才のバースデーケーキをつくりたいです。 佐藤陽子

読者の広場

12月には35通のメールと、5通の投書を頂きました。まず一つ目は、初めて『お母さんクラブ』のクリスマス会に参加した宮城野区の毛利さんから。「宮城野区の毛利です。初めて参加させていただいたクリスマス会、とても感激しました！。何もかもが手作りで、先生やスタッフの皆さんが、あんなに忙しい中どうやって準備したんだろうと頭が下がる思いでした。プレゼントまで手作りで、特におてだまはなつかしさとあたたかさで、心まであったかくなりました。薬局のスタッフの方まで参加していて、かわむらこどもクリニックの土台はいろんな人がしっかり支えていることを改めて感じました。涼楓も太洋もとても楽しかったらしく、帰って来た父に先を争って話していたくらいです。涼楓は、「川村先生ったらね、ゲームの時に”わざと間違えるのも大変だ”って言ってたんだよ」と笑ってました（母と太洋はトイレに行っていて見れませんでした(ToT)）。あんなにたくさんのおみやげがいただけるとは知らずに、今週になってから涼楓と太洋の参加をお願いしてしまい迷惑をかけてしまったのではと申し訳なくも思っています。スタッフの皆さんに宜しくお伝えください。これからも、お母さんクラブの活動に参加したり、お手伝いさせていただきたいと思ってます。」。お母さんクラブのクリスマス会は、支えてくれている患者さんへの感謝の意味も込められています。プレゼントは、スタッフと会員方々の協力によるものです。本当に皆さんご苦労様でした。この記事に興味を持たれた方は、是非御入会ください。



次に、宮城野区の今野さんの投書を紹介します。「先生・スタッフの皆さんへ。初めての手紙をもっとちゃんとした形で日頃のお礼を含めて書きたかったのですが、今日はどうしてもお礼を言いたくてお手紙します。今野瑛翔です。今回は月曜からの咳で病院にかかり、水様の突然の嘔吐で、昨日はとても動揺してしまいました。子供ががあんなに吐いたことも、点滴したことも初めてで、不安だらけでした。そんなとき先生のコマかい説明を含めた言葉、看護婦さんの笑顔や大丈夫！！と言う力強い言葉、点滴中にしょっちゅう気にかけてくれて、そのたびにやさしく話しかけてくれたこと、受付の方のやさしい対応、全てが私に安心を与えてくれました。木曜は元気になった姿を見せる意味もあり、私自身が先生やスタッフの皆さんに会いたいというのもあり、連れてきました。私の顔をみると受付の方も「どうですか？」と心配してくれ、看護婦さんもみなさんが「どう？」と声をかけてくれて、「ああ、やっぱり来てよかった」と安心しました。とてもうれしくなりました。これからも、たくさんお世話になると思います。よろしく願います。ありがとうございます。」。



溶連菌感染症が非常に多くみられます。また水痘も一時と比べかなり増加しています。手足口病や伝染性紅斑もみられています。アデノウイルス感染症（高熱、扁桃炎、時に結膜炎）が多くみられ、高熱と嘔吐のウイルス性胃腸炎も多くなっています。インフルエンザの流行はまだで、12月に診断されたのは、たった3人だけでした。

今年もめざしていきます。年の初めに、このような投書を紹介できることができ、とてもうれしく思います。ありがとうございました。他に、3件の提案を頂きました。駐車場の段差の件、トイレ（暖房便座）の件、自転車の通路確保の件です。早急に対応させていただきます。言われないと気付かないこともあります。提案も大歓迎です。必ず対応できるとは限りませんが、御遠慮なく。できればお名前を！。

雑誌掲載の御紹介 『ひよこクラブ』3月号

「小児科の先生から言われた？について」を担当しました。読者が小児科医で言われた疑問点について、具体的に考え方を解説しています。乞う御期待

編集後記

今年のはんびりと思っていたのですが、1月2日には急患センターの担当と、やはりのはんびりはできませんでした。これで2年連続のお正月当番です。「来年は、きっとのはんびりするぞ〜と」、思っています。ちょっと早すぎますか？。今年もよろしく願い致します。

